

以上よりそううつ病, 特に rapid cycler の治療において CBZ の有効性は高いと考えられる。

12) 抗うつ剤使用中の躁転例について

砂山 徹	(白根緑ヶ丘病院)
若穂用 徹	(五日町病院)
中村 秀美・藤巻 誠	(新潟大学精神科)
松井 望・伊藤 誠	(新潟大学精神科)
不破野誠一	(国立療養所 犀潟病院)
宮下 理	(黒川病院)
坂井 正晴	(三島病院)

新潟大学医学部附属病院精神科外来を受診した感情障害患者について調査し, 単極性うつ病の診断で抗うつ剤投与中に躁転した症例について検討した。

昭和61年9月から昭和63年6月までに新潟大学医学部附属病院精神科を初診した感情障害患者は430名であった。その内訳は, 双極性うつ病の男性28名, 女性23名, 計51名, 単極性うつ病の男性164名, 女性215名, 計379名であった。単極性うつ病の方が平均年齢が高く, 女性が多かった。

単極性うつ病に関するその後の経過の調査で, 臨床経過・転帰のわかったものは242名で, そのうち10名(4.1%)が抗うつ剤投与中に躁状態もしくは軽躁状態を呈した。男性が4名, 女性が6名で, 男女間で躁転率の差はみられなかった。4.1%という値は欧米での報告より低かったが, 研究対象と方法の相違が躁転率の違いに関係していると思われる。

躁転した10名のうち4名に感情障害の家族歴がみられた。病前性格では一定の傾向はみられなかった。過去の病相数については, 初発例は1名で, 9名が再発例であった。これは Winokur らの報告と一致していた。使用薬剤は, アモキサピン4名, うち1名はスルピリド併用, アミトリプチリン4名, うち1名はドスレピン併用, イミプラミン2名であった。投薬開始から躁転までの期間, つまり発現潜時は2週間から6カ月で, 平均2.7カ月であった。これは欧米での報告より長かった。躁転時の年齢と発現潜時の関係をみたところ, Scheyen らの報告と異なり, 相関を認めなかった。使用薬剤については, アモキサピン使用例で他剤に比べて発現潜時が短い傾向がみられた。

今後, 躁転と抗うつ剤, アキスカルのいう Bipolar III, 生物学的マーカー等との関連については, 研究方法に検討を加えた上で, 症例を積み重ね, 明確にしていくなければならないと考えた。

13) 中年期の精神障害

—時代変遷について—

小林 慎一	(飯塚病院)
幸村 尚史・佐藤 哲哉	(新潟大学精神科)
鈴木 健司	(新潟南病院)
田中 敏恒	(新潟県立悠久荘)
加藤 佳彦	(大島病院)

1. はじめに

中年男性の自殺が近年増加している。この増加は昭和50年頃から徐々に始まり昭和58年にピークとなった。今回我々は中年期の自殺が最も少なかった昭和43年の初診者外来統計を調査し, これと昭和58年の結果を比較することにより, 中年男性の自殺率の上昇と臨床統計がどのように関連しているかを検討した。

2. 対象と方法

対象は昭和43年と昭和58年の7月1日から12月31日までに, 新潟大学精神科外来を初診した患者のうち, 脳器質性疾患, てんかんを除いた15才以上の精神障害者を対象とした。精神障害者総数は昭和43年では男性154名, 女性136名の計290名, 昭和58年では男性180名, 女性208名の計388名であった。カルテの記載に基づき, 主に伝統的診断名によって診断した。対象者を各精神障害ごとに, 15-39才の若年層, 40-59才の中年期, 60才以上の老年期に分け, 各年齢層における各精神障害者数の精神障害者総数に対する比率を求め, それらを男性, 女性, 男女計ごとに比較し, その比率の推移について昭和43年と昭和58年とを比較した。

また神経症について, 各類型ごとに集計を行い, 年齢分布, 各年齢層における各類型の占める割合について43年と昭和58年の比較を行った。推計学的検討には X² test を用いた。

3. 結果と考察

昭和43年と昭和58年を比べると, 若年層の神経症類型がより多様化していたのに対し, 中年期の神経症類型にはこの様な多様性がみられなかった。このことは一方では中年期の神経症類型が時代的影響を受けにくいことを示唆していると考えられる。他方若年層においては, おそらく時代変化の中で若年層の葛藤の質が多様化しており, これが若年層の類型の多様化に結び付いていると考えた。

また昭和43年と昭和58年で, 中年期の単極性うつ病の比率に有意差がなく, さらに中年期の精神障害の比率も増加していなかった。我々の国勢調査, 人口動態統計に基づいて調べた新潟県の中年期の男性の自殺死亡率の時代的推移を見ると, 昭和40年では人口10万に対して27.1